


平成4年5月26日

豊橋技術科学大学長 殿

審査委員長 中川 聖一 

論文審査及び最終試験の結果報告書

このことについて、下記の結果を得ましたので報告いたします。  
記

|         |                               |         |               |
|---------|-------------------------------|---------|---------------|
| 学位申請者   | <u>塩見 彰睦</u>                  | 学籍番号    | 第853421号      |
| 申請学位    | 博士(工学)                        | 専攻名     | <u>システム情報</u> |
| 論文題目    | <u>人間要因を考慮したソフトウェア設計支援の研究</u> |         |               |
| 公開審査会の日 | 平成4年5月25日                     |         |               |
| 論文審査の期間 | 平成4年4月23日~平成4年5月25日           | 論文審査の結果 | <u>合格</u>     |
| 最終試験の日  | 平成4年5月25日                     | 最終試験の結果 | <u>合格</u>     |

論文内容の要旨

大規模ソフトウェアの出現にともなって、これを正しく効率的に作成することを目指して、ソフトウェア工学が誕生した。ソフトウェアの制作工程は、ウォーターフォール・モデルに従うと、要求分析、システム設計、モジュール設計、コーディング、システムテスト、運用保守の順に進行する。

本研究は、要求分析、システム設計、モジュール設計の部分、いわゆる上流工程に関するものである。この工程では、担当者の創造性が最も要求される。

本論文の第I部で申請者は、この上流工程の設計支援にカード操作エディタKJエディタ(KJ法:カードを用いた情報管理・発想法)を一般化した図式エディタ様式PANを提案し、上流工程支援ツールHCPチャートに適用したHCPチャート・エディタPAN/HCPを実現している。

上流工程の分析・設計作業を計算機上で行なうには、日本語入力作業の妨げとならないことが重要である。第II部においては、入力作業が創造活動に影響を与えることが少ない、無想式の2ストローク入力のための仮名漢字変換システムについて論じている。







審査結果の要旨

本論文は、ソフトウェア制作における支援ツールとして図式エディタ様式PANを提案し、KJエディタに加えて、この様式でHCPチャート・エディタも制作し、実際の設計作業に用いて、その評価を機能と人間要因面について行なっている。従来、上流工程の支援ツールはいくつか存在するが、いずれも主として設計結果を消書するためのものであり、創造性が要求される設計作業自体の支援を目指したものは少なく、本研究は高く評価できる。

2ストローク入力は欧文タイプライター以上の入力効率を得られるシステムであり、習得できれば分析・設計文書の作成において、特にコードが無想式の場合は入力作業に注意を払うことなく、創造活動に集中することが出来る。しかし、全ての漢字コードを習得することは容易でないので、仮名漢字変換を併用せざるを得ない。本論文は2ストローク入力との併用に適した仮名漢字変換方式を2つ提案し、実現・評価している。

以上の研究成果は、ソフトウェア設計に有効な支援ツールの実現にとどまらず、その評価により本ツールの機能的な側面以外に、人間要因による問題点に関する知見を与えるものであり、博士(工学)の学位論文に相当するものと判定した。

審査委員

阿部 健一  大岩 元  中川 聖一   
今井 正治   

(注) 論文審査の結果及び最終試験の結果は「合格」又は「不合格」の評語で記入すること。